



英語コミュニケーションⅢ(学部)



小学校授業実践英語演習Ⅱ(大学院)

兵教大の英語教育

外国語教育の充実に向けて

学習指導要領の改訂に伴い、小学校の中学年で「外国語活動」、高学年で「外国語科」が導入されるなど、外国語教育の充実が求められています。学校現場では、これらの授業での指導力とともにALT(外国語指導助手)とのコミュニケーションなど英語力の向上が不可欠となっており、近年、教員採用試験に英語資格等による加点措置を導入する教育委員会も増えています。多くの学生が教員となる兵庫教育大学での外国語教育の充実に向けた取り組みを紹介します。



英検対策講座



DHPプログラム

学校教育学部 英語に関する授業科目

科目区分	履修年次	授業科目名
表現コミュニケーション科目	1	英語コミュニケーションⅠ
	1	英語コミュニケーションⅡ
	2	英語コミュニケーションⅢ
	2	アカデミック英語Ⅰ
	2	アカデミック英語Ⅱ
初等教科指導法科目	3	初等英語教育法
専門教育科目 (教科に関する科目)	3	英語学概論
	3	英語学基礎論
	3	英語学特論Ⅰ
	3	英語学特論Ⅱ
	2	英米文学概論
	3・4	英米文学特論
	3	英米文学研究Ⅰ
	3・4	英米文学研究Ⅱ
	1	オーラルコミュニケーションⅠ
	2	オーラルコミュニケーションⅡ
	3	ライティング
1	異文化理解Ⅰ	
2	異文化理解Ⅱ	
専門教育科目 (教職に関する科目)	2	英語科教育論
	2	英語科指導論
	3	英語科授業研究
	3	英語科教材論

大学院修士課程 英語に関する授業科目

科目区分	履修年次	授業科目名
専門科目	1・2	英語コミュニケーション授業研究
	1・2	英語科におけるカリキュラムと評価の研究
	1・2	英語教育研究法
	1・2	英語科教育史論
	1・2	英語音声指導論演習
	1・2	小学校英語教育論
	1・2	小学校英語教育論演習
	1・2	英語教育内容論Ⅰ(英米文学)
	1・2	英語教育内容論Ⅱ(英文法と言語理論)
	1・2	英語教育内容論Ⅲ(英語の変異と語法)
	1・2	英語教育内容論Ⅳ(音声学・音韻論)
	1・2	英語教育内容論Ⅴ(アカデミックライティング)
	1・2	英語教育内容論演習Ⅰ(英米文学)
	1・2	英語教育内容論演習Ⅱ(英文法と言語理論)
	1・2	英語教育内容論演習Ⅲ(英語の変異と語法)
1・2	母語学習と外国語学習	
1・2	言語の理解と表出	
小学校英語活動プログラム開設科目	1・2	小学校授業実践英語演習Ⅰ
	1・2	小学校授業実践英語演習Ⅱ
	1・2	小学校英語活動授業研究
	1・2	小学校英語活動教材研究
	2	小学校英語活動インターンシップ
	2	インターンシップリフレクション
1・2	海外教育体験実習	

学部授業科目 「英語コミュニケーションⅢ(Cクラス)」

■科目区分/表現コミュニケーション科目 ■履修年次/学部2年 ■受講者数/24人

受講生のコメント

の授業では、ウェンディ先生の説明や指示など、開始から終了までずっとオールイングリッシュです。ペアで文章を考えながら生活で使える英会話について学んでいます。授業を受け始めた頃はすぐに聞き取れなくて、ゆっくり話してもらってました。そのうちにだんだん慣れて聞き取れるようになり、今では毎回楽しく授業を受けています。ウェンディ先生の出身であるオーストラリア独特の言い回しなども知ることができ、英語をもっと学びたいと思えました。



の は ら ま ゆ こ
篠原麻友子さん
学校教育学部
学校教育系コース2年



校に加えて小学校でも英語を教えるために来日したさまざまな国のALTに対応する機会や、教員が海外の姉妹校などへ生徒を引率する

機会が増えました。そこで、学生が在学中に海外留学や海外旅行で異文化に触れる機会を持てるような授業内容に設定しています。

▼目的別による表現力向上のために、「会話の始め方」「依頼の仕方」「知らない単語の意味の明確化」「助言の受け方」等のコミュニケーション戦略を取り入れています。

▼学生が興味のある国内外の旅行について、例えば海外の遊園地やファストフードなどの情報を収集し、ペアで調査したり、プレゼンテーションを行ったりする機会を設けています。

授業の概要

英語コミュニケーションⅢの内容は教員によって異なりますが、私の担当するクラスでは実際に海外旅行で使える英語を学習し、旅行について英語で発表することを目標としています。最近では中学校、高校に加えて

学びのポイント

▼学生はペアになって、旅行で使う会話文を作成。教員からフィードバックを受けます。



担当教員
言語系教育コース
多田ウェンディ講師

学部授業科目 「英語科授業研究」

■科目区分/専門教育科目 ■履修年次/学部3年 ■受講者数/15人

受講生のコメント

グループ別に行った模擬授業で最も意識したのは、活動選びです。1コマの中に4技能をバランスよく取り入れること、児童・生徒一人一人に十分な発話量を確保することなどです。私たちが小学生の頃は外国語活動が必修ではなかったため授業を考えることは難しかったのですが、指導法、実際の授業の分析、模擬授業と段階を踏むことで、英語科の授業をより良いものにするポイントを見つけられたように思います。教員になったときには、学んだことを生かして子どもたちが英語を楽しめる授業にしたいです。



あか まつ ぶ き
赤松布規さん
学校教育学部
言語系コース3年



ます。具体的には、小学校、中学校、高校において英語を教えるために必要とされる基本的な言語習得理論、それに基づいた指導理論の理解を基

▼授業の前半では、グループ討議と講義を通して、各スキル別のコミュニケーション力を育てる授業に必要な指導理論について学びます。

▼後半では、前半で学んだ知識を使って、実際の授業の観察・分析活動を通して、授業改善のための分析力を養います。

▼最後に授業観察や分析活動で学んだことを基にグループで模擬授業を行い、その内容について研究討議を行うことで、理論に基づいた実践的な指導技術の習得を目指しています。

授業の概要

「自分が教えられたように教える」というのではなく、理論に基づいた授業活動をデザインできることを目標としています。

学びのポイント

に、言語スキル別(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)の授業デザインの方法と、その実践的指導技術の習得のための授業を行っています。



担当教員
言語系教育コース
近藤暁子准教授

大学院授業科目 「小学校授業実践英語演習Ⅱ」

■科目区分／小学校英語活動プログラム開設科目 ■履修年次／大学院1・2年 ■受講者数／7人

受講生のコメント

毎回、みんなで英会話を楽しむことから授業が始まります。コミュニケーションが目的なので、相手に伝えたいという気持ちが自然と生まれ、主体的に英語を学ぶ意欲につながっています。また、教育や心理学についての英論文を読み、専門家の言葉に触れ、ディスカッションすることで視野も広がってきています。「共に、周りの人や物事から学ぼう」という先生の姿勢も、私自身の学びとなっています。自らが学びを求めてアクションを起こし、さらに学びを広げていくことができる、そんな素晴らしい授業です。



くろかわ
黒川さゆりさん
修士課程
教育コミュニケーションコース1年

▼各学生が所属するコースでの専門知識を生かして、国内外の社会問題や教育に関する英文記事を読み、それを土台にグループ討論を行っています。トピックは、アクティブラーニング、成長思考、感情知能、ポジティブ心理学、第二言語習得など、多岐にわたります。

▼学生は、私のサポートを受けながら、会話、討論、プレゼンテーション等を通して、



学びのポイント

現職教員および教員を目指す学生が、小学校の授業で柔軟に英語を用いる力と、さらに海外の教職員と英語で討議できる力を養うことを目標としています。前期の「演習Ⅰ」の発展編に当たる科目です。

▼小学校での英語授業のシミュレーションとして、クイズや話し合い、ロールプレイ、ストーリーテリング、即興劇等の活動を行っています。

▼学生たちは、それぞれの経験やアイデア、知識を分かち合いながら、豊かな言語学習環境の中で学んでいます。

授業の概要

て、英語力を高めています。



担当教員
マーク・テラー 非常勤講師
平成19(2007)年修士課程言語系コース修了生

派遣留学制度

大学の協定校である米国ウィスコンシン大学オークレア校に1年間留学しました。現地での生活は、一見何も変わらないようでありながらほぼ全てが新しいことばかりで、悪戦苦闘の毎日でした。そんな中で、大事なことに気付くことができました。それは、失敗することの大切さです。異国の地で失敗を重ねたことによって、以前は



恥ずかしいという感情しか生まれなかったのが、今ではその失敗は学びに直結する大事なプロセスなんだと思えるようになりました。この留学経験は、将来教員を目指す私にとって掛け替えのないものとなりました。



平成28年9月から29年8月まで、米国・ウィスコンシン大学オークレア校に留学
かないひろき
金井宏樹さん
学校教育学部
学校教育系コース4年

1年間、フィンランドのユヴァスキュラ大学に英語教育を学ぶために留学しました。フィンランド語は、ドイツ語やフランス語と同じ語族に属しているわけではありません。それにもかかわらず、フィンランド人は英語を流暢に話すことができます。現地の小学校・中学校の授業見学や大学での授業を通して、教育法や制度の他に、社会的な事情などが要因になっていることを知ることができました。



留学を通して、言葉も背景も違う国の留学生と教育について話し合えたことは、非常に良い経験になったと思います。



平成28年9月から29年8月まで、フィンランド・ユヴァスキュラ大学に留学
あべしょうだい
安部翔大さん
学校教育学部
言語系コース4年

学

内選考を経て学長の許可を受けた学生が、海外の交流協定大学で学習する制度を設けています。留学期間は6ヵ月から1年以内で、卒業に必要な要件を満たすことが可能です。

たしてれば留年することなく卒業することもできます。また、留学先で習得した単位は、内容によっては大学の単位として認定を受けることができます。

英語力向上の取り組み

正課の教育以外にも、英語力を磨いたり国際感覚を養ったりとスキルアップしたい学生向けにさまざまな取り組みを展開しています。

Eigo de ランチ

学生の英語力向上や外国人留学生と日本人学生との交流を目的に、前期と後期に各4回実施している恒例行事です。ランチの間はイングリッシュ・オンリー。毎回、海外旅行の話や留学生の自国の話、好きな日本のアニメなどの話で大変盛り上がりします。



参加者のコメント

同年代だけでなく、海外で教育関係の仕事をしている留学生とも英語で話し、「生きた英語」に触れることができました。国ごとの教育について知ることによって国際理解にもつながり、もっと英語で上手にしゃべれるようになりたいという意欲が湧きました。



はら なおこ
原 直子さん
学校教育学部
学校教育系コース2年

英語力向上対策

大学教職員や外部講師による英検、TOEIC®の受験対策講座を開いています。また、大学を会場とした英語検定試験(団体受験)も実施しています。

講座名	内容
英検試験対策講座	ガイダンス、1次試験対策(筆記・リスニング)、2次試験対策(口頭試問)
英検セミナー	リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング
TOEICセミナー	初級レベルの受験対策、中級レベルのリスニング対策

英語検定試験



TOEICセミナー



海外短期派遣プログラム

海外の協定校と連携した研修プログラムで、個人での海外旅行では訪ねることの難しい学校教育現場への訪問や、現地の学生との交流が可能となるような内容が含まれています。平成29(2017)年度に実施した2つのプログラムには、それぞれ学部生、大学院生が10人程度参加したほか、兵教大の教職員も随行しました。

英語研修プログラム(オーストラリア)

自然豊かなオーストラリアで、ホームステイをしながら英語を学ぶプログラム。ゴールドコーストにある語学学校でさまざまな国々から集まる学生たちと共に、各自の英語力に応じたクラスで短期集中的に学習しました。



- 訪問地 / オーストラリア・ゴールドコースト
- 日程 / 平成29年9月中旬(9日間)

欧州文化研修プログラム(フィンランド)

フィンランドの学校教育を学ぶことを主な目的としたプログラム。協定大学のユヴァスキュラ大学で同国の教育現場を体感するためのレクチャーを受け、現地の小学校も訪問しました。



- 訪問地 / フィンランド・ユヴァスキュラ
- 日程 / 平成29年9月中旬(7日間)

参加者のコメント

研修プログラムでの9日間は毎日が初めての連続で、とても充実していました。参加しないと分からない達成感や充実感があり、参加して本当に良かったです。本当の家族のように迎えてくれたホストファミリーとの出会いは一生の宝物です。



かま おあやか
鎌尾朱華さん
学校教育学部
学校教育系コース2年

短期海外派遣プログラム：英語研修プログラム(オーストラリア)

DHPプログラム

—協定大学間学生交流プログラム—

韓国・大邱(Daegu)教育大学校、日本・兵庫(Hyogo)教育大学、台湾・屏東(Pingtung)大学の3大学が毎年輪番で実施する、学生間交流プログラムです。英語によるプレゼンテーションや相互のコミュニケーション、異文化体験等に挑戦することを目的としています。

